

## 防災の新しい考え方

防災の新しい考え方  
防災の新しい考え方

3

### 防災の新しい考え方

- ▶ 阪神・淡路大震災や東日本大震災は、危機の時代に即した防災の考え方を持つ必要性を、教えている

(1) 事前減災・・・少しでも被害を少なくしようと努力する(リスクマネジメント)

(2) 連携協働・・・皆で力を合わせて困難を克服する(クライシスマネジメント)

→どちらも、「足し算」や「補完性」がキーワード

## 減災の概念

巨大災害には「防災」ではなく「減災」

▶ 哲学的概念・・大きな自然に対する

小さな人間の認識

小さな人間のできることを考える

▶ 実践的戦略・・対策の足し算による

被害の引き算の追及

効果的な対策の組み合わせを考える

→ 足し算はつながりづくり

▶ 5

## 足し算の類型

▶ 被害の引き算を対策の足し算ではかる

(1) 時間の足し算

事前、最中、事後

(2) 人間の足し算

行政、自治会、企業、NPO

(3) 空間の足し算

大きな公共、小さな公共

(4) 手法の足し算

ハード、ソフト、ヒューマン

▶ 6

## 連携の概念

### 巨大災害には「主導」ではなく「連携」

巨大災害あるいは大規模被災には、個々がバラバラに立ち向かってはどうにもならない

#### ▶ 域内連携と域外連携

コミュニティの中での助け合いとコミュニティを超えた助け合い

#### ▶ 垂直連携と水平連携

立場を異にする者(親子関係)の助け合いと立場を等しくする者(姉妹関係)の助け合い

▶ 7

## 助け合いの類型

### ▶ 「自助」に「公助」「互助」「共助」を足し合わせる

#### (1) 公助・・・行政による支援

パブリックケア・・・基盤整備、財政支援、学校教育

#### (2) 互助・・・顔を知ったもの同志の支援(友愛)

コミュニティケア・・・安否確認、まちづくり、地域教育

#### (3) 共助・・・顔を知らないもの相互の支援(博愛)

ボランティアケア・・・義捐金、被災地駆けつけ

自助も公助も互助も共助もすべてが大切

→ 7 : 2 : 1 の原則は誤り

▶ 8

## これからの地域づくり

9

### 地域密着のまちづくり

- ▶ 自治会や地域コミュニティが主体となって、地域の様々な特性に配慮しつつ、地域の様々な資源を生かして、**高齢者も含めた地域の様々な人々の連携によって安全で安心できる社会の構築を目指すこと**
  - (1) 日常性と非日常性の融合・・アメコミセキュリティ  
地域や暮らしを通じての総合化  
安全性、快適性、利便性などの統合
  - (2) 地域の個性を生かした手作り性・・レディメード  
生活、生業、生態を包括的に捉える  
自然や文化を生かした減災の取り組み

## 内発創造のまちづくり

- ▶ **安全なまちをつくるうえで、ひとづくり、きずなづくり、ことづくり、まちづくりが欠かせない**
  - ひとづくり・・・災害に強いひと、地域を支える人をつくる
    - 学校教育や家庭教育に加えて地域教育
  - きずなづくり・・・補完関係、支援関係、共創関係をつくる
    - 地域のガバナンスとネットワーク
    - 自主防災組織
  - ことづくり・・・力を合わせ、皆の力を磨く機会をつくる
    - 地域のイベント、地域の減災風習
  - まちづくり・・・安心して暮らすことのできる空間をつくる
    - 地域のメンテナンス、地域のしつらえ

▶ 11

## 連携協働のまちづくり

- ▶ **多様な人々がその個性や能力を生かしてつながること、そのつながりの中で互いに補完しあい支えあうことが、地域コミュニティには求められる**
  - (1) 様々な職能や特性を足し合わせる・・・消防団員、民生児童委員、社会福祉士、防災士、アマチュア無線士など様々な人がつながる・・・地域安心ネット
  - (2) 高齢者や障害者あるいは幼児さらには外国人などを温かく包摂する・・・地域での見守り、要援護者の支援、バリアフリー化

▶ 12

自治体の防災対策の重要性を認識し、関係機関と連携して取り組むことが必要である。

自治体の防災対策の重要性を認識し、関係機関と連携して取り組むことが必要である。

自治体の防災対策の重要性を認識し、関係機関と連携して取り組むことが必要である。

自治体の防災対策の重要性を認識し、関係機関と連携して取り組むことが必要である。

自治体の防災対策の重要性を認識し、関係機関と連携して取り組むことが必要である。

## 相互交流と連携協働

自治体の防災対策の重要性を認識し、関係機関と連携して取り組むことが必要である。

自治体の防災対策の重要性を認識し、関係機関と連携して取り組むことが必要である。

## 連携と交流

### ▶ 連携の前提は相互交流

#### (1) 対等性・正四面体

信頼関係や顔の見える関係がなければ、効果的な助け合いはできない・日常的な関係性の構築が欠かせない

#### (2) 相互性・互恵、互助

「助ける側」と「助けられる側」の分断は禁物  
学び合う、育ち合う、分かち合うことが基本

日常・いいところを学び合う 自主防間の交流

非常・被災地支援の「数珠つなぎ」

## 地域内での協働の機能

- ▶ 協働においては、地域・コミュニティの果たす役割は大きい

### (1) 日常的関係の連続性からくる協働

- ・ 交流による基盤(つながり)の強化

### (2) 即時的対応の必要性からくる協働

- ・ 協働による機能(はたらき)の強化

機能や分野を異にする協働・・課題融合

役割や立場を異にする協働・・組織融合

## 地域内での協働の課題・・非常時

- ▶ 大震災とコミュニティ

### (1) 応急時の即地的対応

安否確認、救出救護、初期消火

### (2) 被災者相互の支え合い

避難所の運営、高齢者の見守り

### (3) 復興まちづくりの推進

復興の合意形成、環境整備の展開

### (4) 減災コミュニティの形成

減災力の向上、福祉との連携

## 地域内での協働の課題・・・日常時

- ▶ 地域ぐるみの人づくり、ことづくり、仕組みづくり
  - (1) 防災診断
    - ・・・コミュニティ単位のマップづくり
  - (2) 防災教育
    - ・・・公民館などを軸にした地域教育
  - (3) 防災改修
    - ・・・転倒防止などをコミュニティぐるみで
  - (4) 防災態勢
    - ・・・安否確認や避難誘導のための態勢

▶ 17

## 地域間での協働の課題

- ▶ 日常時に姉妹都市や友好都市の関係ができていると、非常時にも迅速な助け合いができる
  - 様々な形での関係づくりや交流づくり
    - 都市と農村の交流
      - 「疎開パック」(智頭町等)
    - 姉妹校や姉妹自治会のつながりづくり
    - 減災の取り組みの相互交流、相互競争
      - 良い経験を学び合う・・・そのための協議会などの組織化
  - 広域的な避難や疎開の相互受入れ

▶ 18